

2014 年度活動計画

1. チーム活動

2013 年度にチーム活動として「意識調査」「支援研究」を設置したが、これらを発展させる形で進める。

(ア) 意識調査

➤ 個人に対する意識調査

聴覚障害者 500 名、健聴者 500 名に対して観劇行動の調査を行い、相互の違いを探り、その原因は支援の有無にあることを立証し、支援システムの構築への基礎資料とする。

➤ 団体に対する意識調査

演劇関係団体（主催者、劇場など）に対して、観劇サポートに対する考え方および導入にあたっての課題を対面調査（インタビュー）方式で探る。首都圏 20 か所を目標とし、できるだけ幅広いジャンルとなるように工夫する。書面によるアンケート配布も行う。

(イ) 支援研究

以下 3 つの方法に分けて、「勉強会」→「実践」→「モニタリング」のサイクルによって研究を進める。

➤ 手話通訳 舞台における手話通訳のあり方についての勉強会を行う。以下メンバーから企画趣旨の承諾済なので、秋ごろを目途に日時調整する。

木村晴美氏（養成の立場から）、米内山陽子氏（通訳者の立場から）、飯泉菜穂子氏（司会）

➤ 文字 メガネ型ディスプレイを使っただの実験を実際の公演の場で行うことによって字幕の可能性を探る。
協力先：あつるすぽと等

➤ 聴覚補償 磁気ループ、赤外線などのシステムについて

2. 情報収集と発信

(ア) 公演情報データベース型ウェブサイトを新たに構築

(イ) 主催者は、支援のある公演情報提供をしやすくなる

(ウ) 当事者は、公演情報を容易に検索しやすくなる

(エ) ウェブサイトの存在を周知するためにリーフレットを改めて製作し、配布する

3. ネットワーク化

下記それぞれの立場をつなぐために、さまざまな取り組みを行う。

当事者（個人・団体）、演劇主催者（個人・団体）、支援者（個人・団体）

➤ 主催者と提携して、観劇ツアーおよび意見交換会の実施

➤ メルマガの発行

➤ イベント等において展示、講演、ワークショップ

➤ リーフレット配布

➤ 外部団体とのシステム構築のための研究グループの立ち上げ

4. シンポジウムの開催

(ア) 2015 年 3 月 28 日(土)午後 森下スタジオにて

(イ) 関係者が一堂に会し、「より良い観劇支援システムの構築のために（仮）」をテーマにシンポジウムを行う。